

北海道文教大学学則

(平成10年12月22日 則 第21号)

第1章 総 則

(目 的)

第1条 北海道文教大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び建学の精神に則り、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、理論と実践にわたり深く学術の教育と研究を行い、国際社会の一員として、世界の平和と人類の進歩に貢献し得る人材の育成を目的とする。

(自己点検・評価等)

第2条 本学における教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動及び管理運営等の状況について自ら点検及び評価を行う。

2 前項の実施に必要な組織及び具体的方法等については、別に定める。

(学部・学科及び収容定員)

第3条 本学に次の学部を置く。

外国語学部

人間科学部

2 前項の学部には、次の学科及びその収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	収容定員
外国語学部	国際言語学科	100名	400名
人間科学部	健康栄養学科	150名	600名
	理学療法学科	80名	320名
	作業療法学科	40名	160名
	看護学科	80名	320名
	こども発達学科	100名	400名

(学部・学科の教育目的等)

第3条の2 学部又は学科ごとの人材の養成及び教育研究上の目的については、次のとおりとする。

2 外国語学部は、実践的な外国語教育を基本として、海外の国々や文化に対する高度な理解を養い、変遷著しい今日の国際化・情報化にふさわしい知性の探求・創造に努めるとともに、国際ビジネスに関する専門的な知識と技術を学び、国際社会の中で主体的に行動できる人材を養成する。

(1) 国際言語学科は、「ことば」によるコミュニケーションが、人と人との関係を築き上げる重要な道具であることを踏まえ、同時に人間が社会の中で行動してこそ輝く存在であることを重視し、「ことば」を生かし、その能力を発揮する場を、人と社会、人と人との関係の中で捉え追求している。このような捉え方を確立することにより、「ことば」を通して、学生の資質を高め、日本国内にとどまることなく、国際社会の様々な分野において、個々の能力を発揮し、輝くことができる人材を育成する。

3 人間科学部は、保健・医療・福祉・教育・保育分野への社会的要請に対応し、人々の健康と幸福を支援するために、人間の本质、人格の発達、成長と老化、社会における人間のあり方など、現代社会を理解するための知識と方法論とを修得するとともに、高度な問題解決能力を培い、専門知識と技術を身につけ実社会に貢献する人材を養成する。

(1) 健康栄養学科は、食品や食物を介してヒトの健康にアクセスする「食物栄養学」に関する高度な専門的知識・技術と、フードサービスマネジメントや臨床栄養学に基づいて直接ヒトの健康にアクセスする「人間栄養学」に関する体系的な知識・技能を修得し、これらを両輪として活用することで現代社会に生きる人々の健康の維持と向上、地域や国際社会の健康問題解決のために活躍できる管理栄養士を養成する。

(2) 理学療法学科は、小児から高齢者まで各種疾患・障害の予防・治療に関する高度の専門的知識・技術を修得し、医療・福祉施設及び地域医療においてリハビリテーションチームの一員として活躍できる能力を養うとともに、科学的根拠に基づいた理学療法を自ら実践でき、国際的視野を有する理学療法士を養成する。

(3) 作業療法学科は、人間性豊かで適切な倫理観を持ち、高度な専門的知識と技術を修得するとともに、地域における作業療法の総合的な理解、コミュニケーション能力、国際性及び科学的・論理的思考法を身につけ、

臨床的実践家として活躍できる作業療法士を養成する。

- (4) 看護学科は、医療の高度化や看護ニーズの多様化等に対応していくため、看護を取り巻く幅広い知識体系から看護職者に求められる豊かな人間性と倫理観及び高度な知識・技術を修得する。更に、専門職としての自発的な能力開発を継続するための能力や看護の向上に資する研究能力の基礎を育成し、地域、国際社会に貢献する実践力のある看護師を養成する。
- (5) こども発達学科は、こどもとこどもの周辺に生じている様々な変化に対応し、こどもの心と体の仕組みや発達とその支援について実践的に学ぶとともに、こどもに関わる幅広い分野における教育研究を行い、高度かつ最新の専門的知識・技術を有する保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭として活躍することができる人材を養成する。

(大学院)

第3条の3 本学に大学院を置く。大学院の学則は別に定める。

(修業年限及び在学年限)

第4条 本学の修業年限は4年とする。

- 2 学生は修業すべき年限の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

第2章 学年、学期及び休業日

(学年)

第5条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- 2 前項において規定する学年の途中においても、学期の区分に従い、学生を入学及び卒業させることができる。

(学期)

第6条 学年を次の2期に分ける。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第7条 休業日は、次の各号のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
 - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
 - (3) 学園創立記念日（6月8日）
 - (4) 夏季休業日、冬季休業日及び春季休業日は、当該年度の学年歴に定める期間
- 2 前項の規定に関わらず学長は、臨時に休業日を設け又は休業日を変更することができる。

(授業期間)

第8条 授業期間は、定期試験等の期間を含め、年間35週にわたることを原則とする。

第3章 入学、休学、留学、転学、退学、転科及び除籍

(入学時期)

第9条 入学の時期は、学年の始めとする。ただし、特別の定めがある場合は、学期の始めにすることができる。

(入学資格)

第10条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (7) その他本学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学志願手続)

第11条 本学に入学を志願する者は、本学所定の入学願書に別に定める入学検定料を添えて願出しなければならない。

- 2 入学志願手続の時期、方法及び提出書類等については別に定める。

(入学者の選考)

第12条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

(入学手続及び入学許可)

第13条 前条の選考結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書その他本学所定の書類を提出するとともに、入学料、授業料及びその他の費用を納付しなければならない。

- 2 入学手続の時期、方法及び書類等については別に定める。
- 3 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

(編入学)

第14条 本学に編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

- 2 編入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 短期大学、高等専門学校を卒業した者
 - (2) 大学入学資格を有し、文部科学大臣の定める基準を満たす専修学校の専門課程を修了した者
 - (3) その他法令で定めるところにより資格があるとされている者
- 3 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

(転入学)

第15条 本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

- 2 転入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 大学を卒業した者又は退学した者
 - (2) 他の大学に在学している者
- 3 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

(再入学)

第16条 正当な理由で本学を退学した者が、再入学を希望するときは、欠員のある場合に限り、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

- 2 前項の規定により入学を許可された者の既に履修した授業科目及び単位の取扱い、並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

(転学部及び転科)

第17条 本学の学生で他の学部へ移ろうとする者又は同一学部で所属の学科を変更しようとする者については、選考のうえ、教授会の議を経て、学長が転部転科を許可することがある。

- 2 前項の規定により転部転科を許可された者の既に履修した授業科目及び単位の取扱いについては、教授会の議を経て学長が決定する。
- 3 転部転科に関する事項は別に定める。

(休学及び復学)

第18条 疾病その他特別の理由により、引き続き3ヵ月以上修学困難な者は、事由書を添えて学長に願出するこ

とができる。

- 2 疾病のため修学することが適当でない認められる者については、学長は休学を命ずることができる。
- 3 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として休学期間の延長を認めることができる。
- 4 休学期間は、通算して4年を超えることができない。
- 5 休学期間は、第4条の在学年限には算入しない。
- 6 休学期間中にその理由が消滅した場合は、学長の許可を得て復学することができる。
- 7 休学及び復学の許可は、教授会の議を経て学長が行う。

(転学)

第19条 他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者は、学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第20条 外国の大学又は短期大学で学修することを志望する者は、学長の許可を受けて留学することができる。

- 2 前項の許可を得て留学した期間は、第4条に定める修業年限に含めることができる。
- 3 第25条の規定は、外国の大学又は短期大学へ留学する場合に準用する。

(退学)

第21条 退学しようとする者は、事由書を添えて学長に願い出、許可を受けなければならない。

(除籍・復籍)

第22条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て学長が除籍する。

- (1) 学費の納入を怠り、督促してもなお納入しない者
 - (2) 第4条第2項に定める在学年限を超えた者
 - (3) 第18条第4項に定める休学期間を超えてなお修学できない者
 - (4) 長期間にわたり行方不明の者
 - (5) 休学期間が満了になっても所定の手続きをしない者
 - (6) 正当な理由がなく授業科目の履修登録をしない者
- 2 前項第1号、第4号、第5号、又は第6号により除籍となった者から復籍の願い出があったときは、学長は教授会の議を経て復籍を許可することがある。

第4章 教育課程及び履修方法等

(授業科目の区分)

第23条 外国語学部において開設する授業科目を分けて、教養科目、専門科目とし別表1のとおりとする。

- 2 人間科学部において開設する授業科目を分けて、教養科目、専門基礎科目、専門科目とし、別表2のとおりとする。
- 3 前各項に掲げる授業科目のほか、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)に定める教員の免許状を得ようとする者のために、別表3の専門科目を開設する。

(履修の方法)

第24条 前条に規定する授業科目は、必修及び選択科目とし、履修方法について必要な事項は別に定める。

(単位の計算方法)

第25条 各授業科目に対する単位の計算方法は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、毎週1時間から2時間15週の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技の授業については、毎週2時間から3時間15週の実験実習または実技をもって1単位とする。

(単位の授与)

第26条 授業科目を履修し、成績の評価が合格に達した者には、所定の単位を与える。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第27条 本学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該他大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

2 前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、60単位を限度として卒業要件単位として認めることができる。

(大学以外の教育施設等における学修)

第28条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(休学期間中の外国の大学における学修)

第28条の2 本学において教育上有益と認めるときは、学生が休学期間中に外国の大学において学修した成果について、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、第27条第2項及び前条第2項の規定により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第29条 本学に入学を許可された者のうち、他の大学又は短期大学を卒業又は中途退学している者については、本学が教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学において修得した単位を、本学において修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、外国の大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、本学に入学を許可された者について準用する。

3 本学に入学を許可された者のうち、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修により単位等を修得している者については、本学が教育上有益と認めるときは、この単位等を本学において修得した単位とみなすことができる。

4 本学に入学を許可された者のうち、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)に定める科目等履修生として修得した単位について、本学が教育上有益と認めるときは、この単位を本学において修得したものとみなすことができる。

5 前各項により与えることができる単位数は、編入学・転入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第27条第2項、第28条第2項及び前条第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(成績の評価)

第30条 授業科目の成績は、別に定める評価基準及び成績評価に基づき、AA・A・B・C・Dの5段階評価をもって表し、AA・A・B・Cを合格とする。

第5章 外国人留学生・研究生・科目等履修生・特別聴講学生

(外国人留学)

第31条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者については、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関する規則は別に定める。

(研究生)

第32条 本学において特定の専門事項について研究することを志望する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関する規則は別に定める。

(科目等履修生)

第33条 本学の学生以外の者で、一又は複数の授業科目の履修を希望する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関する規則は別に定める。

(特別聴講学生)

第34条 他の大学又は短期大学との協議に基づき、当該大学又は短期大学に在学する者を、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に関する規則は別に定める。

第6章 卒業及び学位

(卒業の認定)

第35条 本学に4年(第14条及び第15条並びに第16条の規定により入学した者については、その在学すべき年数)以上在学し、所定の単位を修得した者について、学長は教授会の議を経て卒業を認定する。

(学位授与)

第36条 学長は、前条の規定により卒業を認定した者に対し、学士の学位を授与する。

2 学位の授与に関する規則は別に定める。

第7章 賞 罰

(表 彰)

第37条 学生として表彰に値する行為があった者は、教授会の議を経て、学長が表彰することができる。

(懲 戒)

第38条 本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、その軽重により、訓告、停学及び退学とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがない者

(2) 正当な理由がなくて出席常でない者

(3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

第8章 検定料、学費及びその他諸費用

(入学検定料及び学費)

第39条 入学検定料及び学費は別表4のとおりとする。

(納付した学費等)

第40条 一旦納入した学費等は原則として、返還しない。ただし、次の各号の一に該当する場合は、一部について返還することがある。

(1) 一定の期日までに入学辞退の申し出が許可された場合(入学料を除く。)

(2) 後期分学費等を納期前に納入した者が、後期の授業開始前に休学又は退学が許可された場合

(学費等の納期等)

第41条 学費は指定された期限内に納付しなければならない。ただし、特別の事情があると認められる場合は、学長の許可を得て延納又は分納することができる。

2 授業料は、年額の2分の1ずつを2期に分けて納付することができる。

3 授業料及びその他の諸費用の納付に関する必要な事項は、別に定める。

(復学した場合の授業料等)

第42条 学期の中途において復学した者は、復学した月から当該期末までの授業料等を、復学した月に納入しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合の授業料等)

第43条 学年の途中で卒業する見込みの者は、卒業する見込みの当該期末までの授業料等を納入しなければならない。

(退学、除籍及び停学の場合の授業料等)

第44条 学期の途中で退学し又は除籍された者の当該期分の授業料等は徴収する。ただし、死亡あるいは行方不明者については、未納の授業料等を免除することができる。

② 停学期間中の授業料等は徴収する。

(休学の場合の授業料)

第45条 休学を許可され又は命じられた者については、休学した月の翌月から復学した月の前月までの授業料を免除する。

第9章 別 科

(別科の名称)

第46条 本学に留学生別科を置く。

② 別科に関する規程は、別に定める。

第10章 奨学制度

(奨学生)

第47条 入学後、本人の経済事情に変化が生じた学生に対しては、選考のうえ奨学金を貸与することができる。

② 奨学金に関する事項は別に定める。

第11章 職員組織

(職員組織)

第48条 本学に学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員及びその他の業務に従事する職員をおく。

第12章 教授会

(教授会)

第49条 本学に教授会をおく。

② 教授会に関する規程は、別に定める。

第13章 附属図書館

(附属図書館)

第50条 本学に附属図書館をおく。

② 附属図書館の規程は、別に定める。

第14章 大学開放

(公開講座)

第51条 本学に公開講座を開設することができる。

② 公開講座に関する規程は、別に定める。

(運動施設の開放)

第52条 体育館、グラウンド等の運動施設を教育研究に支障のない範囲において、地域に開放することができる。

(附属図書館及びその他の施設の開放)

第53条 生涯学習及びリカレント教育並びに青少年の学習の場として、附属図書館及びその他の施設を、教育研究に支障のない範囲において、利用を許可することができる。

第15章 厚生保健施設

(保健管理センター)

第54条 本学に保健管理センターを置き、健康衛生をつかさどる。

第16章 改正及び細則

(改正)

第55条 この学則の改正は、教授会の議により原案を作成し、理事会の議を経て行う。

(細則)

第56条 この学則施行に必要な細則は、教授会の議を経て学長がこれを定める。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。
ただし、平成11年度入学生は、なお従前の例による。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。
ただし、平成15年3月末日に在学する学生については従前のとおりとする。

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 第3条第2項に規定する外国語学部の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	収 容 定 員	
		平成16年度	平成17年度
外国語学部	英米語学科	410名	400名
	中国語学科	200名	200名
	日本語学科	210名	200名

- 第39条の規程にかかわらず、平成16年3月末日に在学する学生については次のとおりとする。

① 外国語学部

授業料 950,000円

教育充実費 100,000円

※ 授業料は毎年度納入する。

※ 教育充実費は2年次、3年次のみ納入する。

② 人間科学部

授業料 810,000円

教育充実費 200,000円

実験実習費 100,000円

※ 授業料、教育充実費及び実験実習費は毎年度納入する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 第23条第1項に規定する外国語学部の授業科目は、平成18年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。
- 3 第3条第2項に規定する外国語学部の収容定員は次のとおりとする。

学部	学 科	収 容 定 員			
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
外国語学部	英米語コミュニケーション学科	350名	300名	250名	200名
	中国語コミュニケーション学科	190名	180名	170名	160名
	日本語コミュニケーション学科	200名	200名	200名	200名

附 則

- 1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 第39条の規定にかかわらず、平成19年3月末日に在学する外国語学部学生については次のとおりとする。

授業料 900,000円

教育充実費 130,000円

※ 授業料、教育充実費は毎年度納入する。

- 3 別表第2 ア 健康栄養学科にかかわらず、平成19年3月末日に在学する健康栄養学科の学生については従前のおりとする。ただし、臨地実習は次のとおりとする。

分野	科 目	講演実	単位数	配当年次及び学期		備 考
臨地実習	臨地実習ⅠA	実	1	4	前	
	臨地実習ⅠB	実	1	4	前	
	臨地実習ⅡA	実	1	4	前	
	臨地実習ⅡB	実	1	4	前	選択必修
	臨地実習Ⅲ	実	1	4	後	選択必修

附 則

- 1 この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第23条第1項に規定する外国語学部の授業科目は、平成20年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 第23条第1項に規定する外国語学部の授業科目は、平成21年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 第23条第1項に規定する外国語学部の授業科目は、平成22年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。
- 3 第3条第2項に規定にかかわらず平成22年度から平成25年度までの外国語学部の収容定員は次のとおりとする。

学部	学 科	収 容 定 員			
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
外国語学部	英米語コミュニケーション学科	150名	100名	50名	0名
	中国語コミュニケーション学科	120名	80名	40名	0名
	日本語コミュニケーション学科	150名	100名	50名	0名
	国際言語学科	100名	200名	300名	400名

附 則

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 第23条第1項及び2項に規定する授業科目は、平成23年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。ただし、別表第2ア健康栄養学科の平成23年3月末日に在学する学生について総合演習及び総合は次のとおりとする。

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期		卒業必修	資格区分			
							管理栄養士	栄養士	食品衛生管理者及び食品衛生監視員	食品科学技術認定証
総合演習	管理栄養士活動演習Ⅰ	演	1	3	前	必修				
	管理栄養士活動演習Ⅱ	演	1	3	後	必修				
	管理栄養士演習Ⅰ	演	1	3	後	必修				
	管理栄養士演習Ⅱ	演	1	4	前	必修				
	管理栄養士演習Ⅲ	演	1	4	後	必修				
総合	卒業研究	演	4	4	前・後					

附 則

- 1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 平成25年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 平成26年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。
- 3 第3条第2項の規定にかかわらず平成26年度から平成29年度までの人間科学部こども発達学科の収容定員は次のとおりとする。

学部	学科	収容定員			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
人間科学部	こども発達学科	340名	360名	380名	400名

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成28年5月26日から施行し、平成28年4月1日より適用する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 平成31年3月末日に在学する学生については従前のおりとする。

別表第1 授業科目およびその配当年次・単位数（外国語学部）

国際言語学科
教養科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次 及び学期		卒業必修
基礎科目	基礎ゼミ I	講	2	1	前	必修
	基礎ゼミ II	講	2	1	後	必修
	情報処理	講	2	1	前	必修
	総合教養講座	講	2	1	前	必修
	統計の基礎	講	2	1	後	
	プレゼンテーション概論	講	2	2	後	必修
	日本国憲法	講	2	1	前	
スポーツと健康	生涯スポーツ I	演	1	1	前	
	生涯スポーツ II	演	1	1	後	
外国語	中国語 I	講	2	1	前	
	中国語 II	講	2	1	前	
	中国語 III	講	2	1	後	
	中国語 IV	講	2	1	後	
	中国語 V	講	2	2	前	
	中国語 VI	講	2	2	前	
	中国語 VII	講	2	2	後	
	中国語 VIII	講	2	2	後	
キャリア教育	キャリア入門	講	1	1	前	必修
	キャリア形成	講	1	2	後	
	キャリアプランニング I	講	1	2	後	
	キャリアプランニング II	講	2	3	前	
	キャリアプランニング III	講	2	3	後	
	ファイナンシャルプランニング	講	2	3	前	
	インターンシップ	講	2	3	後	
	公務員講座 I	講	2	3	後	
	公務員講座 II	講	2	3	後	

専門科目

分野	科目	区分	単位数	配 及 当 び	年 次 学 期	卒業必修		
英 語	語学重点	英語文学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
		英語文学Ⅱ	講	2	1	後	必修	
		英語多読Ⅰ	講	2	2	前		
		英語多読Ⅱ	講	2	2	後		
		スピーキングⅠ	講	2	1	前	必修	
		スピーキングⅡ	講	2	1	後	必修	
		スピーキングⅢ	講	2	2	後	必修	
		スピーキングⅣ	講	2	3	後		
		アカデミックライティング入門Ⅰ	講	2	1	前	必修	
		アカデミックライティング入門Ⅱ	講	2	1	後	必修	
		アカデミックライティングⅠ	講	2	2	前	必修	
		アカデミックライティングⅡ	講	2	2	後	必修	
		ビジネスイングリッシュ	講	2	3	後		
		総合英語Ⅰ	演	2	1	前	選択必修A	
		総合英語Ⅱ	演	2	1～2	前		
		総合英語Ⅲ	演	2	2～3	前		
		観光英語Ⅰ	演	2	1	前	選択必修A	
		観光英語Ⅱ	演	2	1～2	前		
		観光英語Ⅲ	演	2	2～3	前		
		実践英語Ⅰ	演	2	1	後	必修	
		実践英語Ⅱ	演	2	1～2	後		
		実践英語Ⅲ	演	2	2～3	後		
		英 米 語	スピーチⅠ	講	2	1	前	選択必修A
			スピーチⅡ	講	2	1	後	
時事問題・ディスカッションⅠ	講		2	1	前	選択必修A		
時事問題・ディスカッションⅡ	講		2	1	後	選択必修A		
映画で学ぶ英語Ⅰ	講		2	2	前	選択必修A		
映画で学ぶ英語Ⅱ	講		2	2	後			
ディベートⅠ	講		2	2	前	選択必修A		
ディベートⅡ	講		2	3	前	選択必修A		
ディベートⅢ	講		2	4	前			
異文化理解論Ⅰ	講		2	3	前	選択必修A		
異文化理解論Ⅱ	講	2	3	後				
ALL ENGLISH	世界遺産Ⅰ	講	2	1	前	必修		
	世界遺産Ⅱ	講	2	1	後			
	北海道の観光Ⅰ	講	2	1	前	必修		
	北海道の観光Ⅱ	講	2	1	後			
	地域研究Ⅰ	講	2	2～3	前	選択必修B		
	地域研究Ⅱ	講	2	2～3	前	選択必修B		
	地域研究Ⅲ	講	2	2～3	後	選択必修B		
	地域研究Ⅳ	講	2	2～3	後	選択必修B		
	国際関係論Ⅰ	講	2	2	前			
	国際関係論Ⅱ	講	2	2	後			
	国際関係論Ⅲ	講	2	3	前			
	国際関係論Ⅳ	講	2	3	後			
	国際関係論Ⅴ	講	2	4	前			
	国際関係論Ⅵ	講	2	4	後			
	地域観光論Ⅰ	講	2	2	前			
	地域観光論Ⅱ	講	2	2	後			
	英語学概論	講	2	2	前			
	国際観光論Ⅰ	講	2	3	前			
	国際観光論Ⅱ	講	2	3	後			
	ツーリズム論Ⅰ	講	2	4	前			
ツーリズム論Ⅱ	講	2	4	後				
温泉文化論	講	2	4	前				

分野	科目	区分	単位数	配当及び	年次	卒業必修
日本語	日本語の文章表現	講	2	1	前	
	日本語の表記と語彙	演	1	1	前	
	日本語表現技法 I	演	1	1	前	
	日本語表現技法 II	演	1	1	後	
	日本の文学作品を読む	講	2	1	後	
	現代日本の諸相	講	2	1	後	
	日本語ライティング法	演	1	1	後	
	日本語学	講	2	1	前	
	日本語コミュニケーション技法	講	2	2	前	
	古典日本語文法	講	2	2	後	
	日本文学史	講	2	2	後	
	日本語実践運用法 I	講	2	3	前	
	日本語実践運用法 II	講	2	3	後	
	漢文講読	講	2	3	前	
	現代日本語文法	講	2	3	前	
	現代日本語論	講	2	3	後	
	書道・書道史 I	講	2	3	前	
書道・書道史 II	講	2	3	後		
観光・ビジネス	国内観光業務取扱論 I	講	2	1	前	選択必修A
	国内観光業務取扱論 II	講	2	1	後	選択必修A
	国内観光業務取扱論 III	講	2	2	前	
	経営学概論	講	2	1	前	選択必修A
	ホスピタリティ論	講	2	1	後	選択必修A
	観光概論	講	2	1	後	選択必修A
	観光・ビジネス特別講義 I	講	2	2	前	
	観光・ビジネス特別講義 II	講	2	2	後	
	観光・ビジネス特別講義 III	講	2	3	前	
	観光・ビジネス特別講義 IV	講	2	3	後	
	観光・ビジネス特別講義 V	講	2	4	前	
	観光・ビジネス特別講義 VI	講	2	4	後	
	ビジネス作法	講	2	2	前	
	観光ビジネス実務総論	講	2	2	前	選択必修A
	ホテルビジネス実務 I (宿泊)	講	2	2	前	
	ホテルビジネス実務 II (料飲)	講	2	2	後	
	航空ビジネス実務 I (キャビンアテンダント)	講	2	2	前	
	航空ビジネス実務 II (グラウンドホステス)	講	2	2	後	
	マーケティング論	講	2	2	前	
	北海道観光政策論	講	2	2	前	選択必修A
	国際観光業務取扱論 I	講	2	2	後	
	国際観光業務取扱論 II	講	2	3	前	
	経営戦略論	講	2	2	後	
経営財務論	講	2	3	前		
観光ケーススタディ	講	2	3	前		
経営ケーススタディ	講	2	3	後		
実践	総合実務実践 I		2	—	—	
	総合実務実践 II		2	—	—	
	総合実務実践 III		2	—	—	
	総合実務実践 IV		2	—	—	
	国際言語研修 I		2	—	—	
	国際言語研修 II		2	—	—	
	国際言語研修 III		2	—	—	
	国際言語研修 IV		2	—	—	
	資格・検定 I		2	—	—	
	資格・検定 II		2	—	—	
	資格・検定 III		2	—	—	
	資格・検定 IV		2	—	—	

選択必修A～Bの履修方法

- ・選択必修A：16単位以上履修する。
- ・選択必修B：2単位以上履修する。

別表第2 授業科目およびその配当年次・単位数（人間科学部）

ア 健康栄養学科
教養科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次 及び学期		卒業必修	資格区分		
							管理栄養士	栄養士	食品衛生管理者 及び食品衛生監視員
人間と文化	心理学概論	講	2	1	前				
	食生活論	講	2	1	後				
	生活と社会環境	講	2	3	後				
	文章表現	講	2	1	前				
	総合教養講座	講	2	1	前	必修			
社会と制度	キャリア入門	講	1	1	前	必修			
	キャリア形成	講	1	3	後				
	キャリア発展	講	1	3	後				
	日本国憲法	講	2	1	後				
	現代医療と福祉・介護	講	2	1	前				
自然と科学	生命科学	講	2	1	前				
	物理学	講	2	1	前				
	基礎化学	講	2	1	前				必修
	統計の基礎	講	2	1	後				
	情報処理	講	2	1	前				
外国語	英語 I	演	1	1	前				
	英語 II	演	1	1	後				
	英語 III	演	1	2	前				
	中国語 I	演	1	1	前				
	中国語 II	演	1	1	後				
	ロシア語 I	演	1	1	前				
	ロシア語 II	演	1	1	後				
スポーツと健康	生涯スポーツ I	演	1	1	前				
	生涯スポーツ II	演	1	1	後				
総合領域	海外・研修 I	演	1	—	—				
	海外・研修 II	演	1	—	—				
	海外・研修 III	演	2	—	—				
	海外・研修 IV	演	2	—	—				

専門基礎科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期		卒業必修	資格区分		
							管理栄養士	栄養士	食品衛生管理者及び食品衛生監視員
社会・環境と健康	公衆衛生学	講	2	1	後	必修	必修	必修	必修
	健康社会と福祉	講	2	1	前	必修	必修	必修	
	公衆衛生学実習	実	1	2	前		必修		
	環境と化学	講	2	1	後		必修		選択A
	統計と社会調査法	講	2	2	前				選択A
	栄養科学英語	講	2	4	前				
人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖学	講	2	1	前	必修	必修	必修	選択B
	生理学	講	2	1	前	必修	必修	必修	選択A
	運動生理学	講	2	1	後	必修	必修	必修	選択A
	病態生理学	講	2	3	前				選択A
	生化学	講	2	2	前		必修		必修
	免疫と食物アレルギー	講	2	3	前		必修		
	疾病の成り立ち	講	2	2	前	必修	必修	必修	選択B
	臨床医学概論	講	2	2	後		必修		選択B
	解剖学実験	実	1	2	前	必修	必修	必修	選択B
	生理学実験	実	1	3	後		必修		
生化学実験	実	1	2	後	必修	必修	必修	選択A	
食べ物と健康	食品学総論	講	2	1	前	必修	必修	必修	必修
	食品学各論	講	2	1	後	必修	必修	必修	選択A
	食品衛生学	講	2	2	後	必修	必修	必修	必修
	調理科学	講	2	1	前	必修	必修	必修	
	食品機能論	講	2	3	後		必修		
	食品科学実験	実	1	1	後	必修	必修	必修	選択A
	基礎食品学実験	実	1	1	前	必修	必修	必修	
	応用食品学実験	実	1	2	前	必修	必修	必修	選択A
	基礎調理学実習	実	1	1	後	必修	必修	必修	
	応用調理学実習	実	1	2	前	必修	必修	必修	
	食品衛生学実験	実	1	3	前	必修	必修	必修	必修
	食品開発論	講	2	2	後				

専門科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期		卒業必修	資格区分		
							管理栄養士	栄養士	食品衛生管理者及び食品衛生監視員
基礎栄養学	基礎栄養学	講	2	1	前	必修	必修	必修	選択B
	栄養生化学	講	2	2	後	必修	必修	必修	必修
	栄養学実験	実	1	2	前		必修		選択B
応用栄養学	食事摂取基準論	講	2	1	後	必修	必修	必修	選択B
	応用栄養学	講	2	2	前		必修		選択B
	ライフステージ栄養学	講	2	2	後		必修		選択B
	応用栄養学実習	実	1	2	後	必修	必修	必修	
栄養教育論	栄養教育論基礎	講	2	2	前	必修	必修	必修	
	栄養教育論実習	実	1	3	前	必修	必修	必修	
	栄養教育論応用	講	2	2	後	必修	必修	必修	
	栄養カウンセリング論	演	1	3	前		必修		
	栄養教育マネジメント演習	演	1	4	後	必修	必修	必修	
	学校栄養教育論総論	講	2	3	前				
	学校栄養教育論各論	講	2	3	後				
臨床栄養学	食・生活教育演習	演	1	1	前		必修		
	臨床栄養学概論	講	2	2	前	必修	必修	必修	選択B
	臨床栄養学各論	講	2	2	後	必修	必修	必修	
	食事療法論	講	2	2	後		必修		
	臨床栄養学実習	実	1	3	前	必修	必修	必修	
	栄養療法実習	実	1	3	後	必修	必修	必修	
	栄養アセスメント論	講	2	3	前	必修	必修	必修	
	栄養ケアプラン論	講	2	3	後		必修		
公衆栄養学	栄養アセスメント演習	演	1	3	後		必修		
	管理栄養士概論	講	2	1	前				
	公衆栄養学Ⅰ	講	2	3	前	必修	必修	必修	選択A
	公衆栄養学Ⅱ	講	2	3	後		必修		
給食経営管理論	公衆栄養学実習	実	1	4	前		必修		
	給食経営管理論	講	2	2	前	必修	必修	必修	選択B
	フードシステムマネジメント論	講	1	2	後		必修		
	給食経営管理論演習	演	1	3	前		必修		
	給食経営管理実習Ⅰ	実	1	2	後	必修	必修	必修	
	給食経営管理実習Ⅱ	実	1	3	前	必修	必修	必修	
総合演習	給食経営管理総合演習	演	1	3	後		必修		
	臨床栄養学総合演習	演	1	3	後		必修		
	公衆栄養学総合演習	演	1	4	前				
	管理栄養士演習	演	1	3	後		必修		
	総合栄養管理論	講	2	4	前		必修		
	総合栄養管理論演習	演	1	4	後		必修		
臨地実習	臨地実習Ⅰ	実	2	3	後	必修	必修	必修	
	臨地実習Ⅱ	実	2	3	後		必修		
総合	卒業研究Ⅰ	演	2	3	後				
	卒業研究Ⅱ	演	2	4	前				

食品衛生管理者関係科目の履修方法

- 1) 必修科目7科目13単位を履修する。
- 2) 選択科目A10科目17単位のうちから11単位以上を履修する。
- 3) 上記1)及び2)に掲げる履修科目を含めて、履修科目の合計が40単位以上になるように選択科目Bの科目を履修する。

イ 理学療法学科
教養科目

分野	科目	区分	単位	配 及 当 び	年 次 期	卒業 必修	備考
人間と文化	文章表現	講	2	1	前		
	心理学概論	講	2	1	前		
	食生活論	講	2	2	後		
	生活と社会環境	講	2	1	後		
	総合教養講座	講	2	1	前	必修	
社会と制度	日本国憲法	講	2	1	後		
	現代医療と福祉・介護	講	2	1	前		
	キャリア入門	講	1	1	前	必修	
	キャリアビジョン	講	1	3	後	必修	
	キャリア形成	講	1	2	後	必修	
自然と科学	生命科学	講	2	1	前		
	情報処理	講	2	1	前		
	統計の基礎	講	2	1	後		
	物理学	講	2	1	前		
	基礎化学	講	2	2	前		
外国語	英語Ⅰ	演	1	1	前		
	英語Ⅱ	演	1	1	後		
	英語Ⅲ	演	1	2	前		
	中国語Ⅰ	演	1	1	前		
	中国語Ⅱ	演	1	1	後		
	ロシア語Ⅰ	演	1	1	前		
	ロシア語Ⅱ	演	1	1	後		
スポーツと健康	生涯スポーツⅠ	演	1	1	前		
	生涯スポーツⅡ	演	1	1	後		
総合領域	海外・研修Ⅰ	演	1	—	—		
	海外・研修Ⅱ	演	2	—	—		
	海外・研修Ⅲ	演	1	—	—		
	海外・研修Ⅳ	演	2	—	—		

専門基礎科目

分野	科目	区分	単位	配当	年次	卒業	備考
				及び	期	必修	
人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	講	2	1	後	必修	
	解剖学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	解剖学Ⅱ	演	1	1	後	必修	
	生理学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	生理学Ⅱ	演	1	1	後	必修	
	応用解剖学実習	実	2	2	前	必修	
	生理学実習	実	1	2	前	必修	
	運動学Ⅰ	講	2	1	後	必修	
	運動学Ⅱ	講	2	2	前	必修	
	運動学実習	実	1	2	後	必修	
	リハビリテーション工学	講	1	3	後	必修	
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	講	2	1	後	必修	
	内科学	講	2	2	前	必修	
	整形外科	講	2	2	前	必修	
	神経内科学	講	2	2	後	必修	
	小児科学	講	1	2	前	必修	
	精神医学Ⅰ	講	2	1	後	必修	
	精神医学Ⅱ	講	2	2	前		
	リハビリテーション医学	講	1	1	後	必修	
	老年医学	講	1	2	後	必修	
	リハビリテーション障害学	演	1	2	後		
	臨床心理学	講	1	2	後	必修	
	臨床栄養学	講	1	2	前		
	薬理学	講	1	3	前		
	救急医学	講	1	3	後	必修	
言語障害治療学	講	1	2	後	必修		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医学概論	講	1	1	前	必修	
	リハビリテーション概論	講	1	1	前	必修	
	公衆衛生学	講	1	1	前		
	統計と社会調査法	講	2	3	後	必修	
	チーム医療概論	講	1	3	後	必修	

専門科目

分野	科目	区分	単位	配当 及び	年次 学期	卒業 必修	備考
基礎理学療法学	理学療法概論	講	2	1	前	必修	
	理学療法管理学	講	1	3	前	必修	
	運動生理学	演	1	2	後	必修	
	病態運動学	講	1	2	後	必修	
	基礎解剖学実習	実	1	1	後	必修	
	理学療法研究法	講	1	3	後	必修	
	理学療法研究セミナー	演	1	3	後	必修	
	理学療法研究 I	演	1	4	前	必修	
	理学療法研究 II	演	1	4	後	必修	
理学療法評価学	医療統計学	講	1	3	前	必修	
	理学療法評価学 I	講	1	1	後	必修	
	理学療法評価学 II	講	1	2	前	必修	
	理学療法評価学実習 I	実	1	2	前	必修	
	理学療法評価学実習 II	実	1	2	後	必修	
理学療法治療学	高次脳機能障害学	講	1	3	前	必修	
	物理療法学	講	2	2	後	必修	
	物理療法学実習	実	1	3	前	必修	
	基礎運動療法学	講	1	2	後	必修	
	義肢装具学	講	2	3	前	必修	
	義肢装具学実習	実	1	3	後	必修	
	運動器障害理学療法学	講	2	3	前	必修	
	運動器障害理学療法学実習	実	1	3	前	必修	
	神経障害理学療法学	講	2	3	前	必修	
	神経障害理学療法学実習	実	1	3	後	必修	
	内部障害理学療法学	講	2	3	前	必修	
	内部障害理学療法学実習	実	1	3	前	必修	
	発達障害理学療法学	講	2	3	前	必修	
	発達障害理学療法学実習	実	1	3	後	必修	
	日常生活活動学	講	1	2	後	必修	
	日常生活活動学実習	実	1	3	前	必修	
	理学療法総合セミナー	演	1	4	後	必修	
	理学療法技術セミナー I	演	1	3	前	必修	
	理学療法技術セミナー II	演	1	3	後		
理学療法技術セミナー III	演	1	4	後			
地域理学療法学	生活環境学	講	1	2	前	必修	
	高齢者理学療法学	講	1	3	前	必修	
	地域理学療法学	講	1	3	前	必修	
	地域理学療法学演習	演	1	3	後	必修	
臨床実習	臨床実習 I	実	1	1	後	必修	
	臨床実習 II	実	2	2	後	必修	
	臨床実習 III	実	3	3	後	必修	
	臨床実習 IV	実	6	4	前	必修	
	臨床実習 V	実	6	4	前	必修	

ウ 作業療法学科
教養科目

分野	科目	区分	単位	配当 及び	年次 学期	卒業 必修	備考
人間と文化	文章表現	講	2	1	前	必修	
	心理学概論	講	2	1	前		
	食生活論	講	2	1	後		
	生活と社会環境	講	2	1	後		
	総合教養講座	講	2	1	前	必修	
社会と制度	日本国憲法	講	2	1	後		
	現代医療と福祉・介護	講	2	1	前		
	キャリア入門	講	1	1	前	必修	
	キャリア形成	講	1	2	後	必修	
自然と科学	生命科学	講	2	1	前		
	情報処理	講	2	1	前		
	統計の基礎	講	2	1	後	必修	
	物理学	講	2	1	前		
	基礎化学	講	2	1	前		
外国語	英語Ⅰ	演	1	1	前	必修	
	英語Ⅱ	演	1	1	後		
	英語Ⅲ	演	1	2	前		
	中国語Ⅰ	演	1	1	前		
	中国語Ⅱ	演	1	1	後		
	ロシア語Ⅰ	演	1	1	前		
	ロシア語Ⅱ	演	1	1	後		
スポーツと健康	生涯スポーツⅠ	演	1	1	前		
	生涯スポーツⅡ	演	1	1	後		
総合領域	海外・研修Ⅰ	演	1	—	—		
	海外・研修Ⅱ	演	2	—	—		
	海外・研修Ⅲ	演	1	—	—		
	海外・研修Ⅳ	演	2	—	—		

専門基礎科目

分野	科目	区分	単位	配当 及び	年次 学期	卒業 必修	備考
人体の構造と機能及び 心身の発達	人間発達学	講	2	1	後	必修	
	解剖学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	解剖学Ⅱ	演	1	1	後	必修	
	解剖学Ⅲ	講	1	2	前	必修	
	生理学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	生理学Ⅱ	演	1	1	後	必修	
	解剖学実習	実	1	2	後	必修	
	生理学実習	実	1	2	前	必修	
	運動学Ⅰ	講	2	1	後	必修	
	運動学Ⅱ	講	2	2	前	必修	
	運動学実習	実	1	2	後	必修	
	リハビリテーション工学	講	1	3	後	必修	
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	講	2	1	後	必修	
	内科学	講	2	2	前	必修	
	整形外科	講	2	2	前	必修	
	神経内科学	講	2	2	後	必修	
	小児科学	講	1	2	前	必修	
	精神医学Ⅰ	講	2	1	後	必修	
	精神医学Ⅱ	講	2	2	前	必修	
	リハビリテーション医学	講	1	1	後	必修	
	老年医学	講	1	2	後	必修	
	リハビリテーション障害学	演	1	2	後		
	臨床心理学	講	1	2	前	必修	
	臨床栄養学	講	1	2	前		
	薬理学	講	1	3	前	必修	
	救急医学	講	1	3	後	必修	
言語障害治療学	講	1	2	後	必修		
保健医療福祉とリハビリ テーションの理念	医学概論	講	1	1	前	必修	
	リハビリテーション概論	講	1	1	前	必修	
	公衆衛生学	講	1	1	前		
	統計と社会調査法	講	2	2	後		
	チーム医療概論	講	1	3	後	必修	

専門科目

分野	科目	区分	単位	配当 及び	年次 学	期 次	卒業 必修	備考
基礎作業療法学	作業療法概論Ⅰ	講	1	1	前	必修		
	作業療法概論Ⅱ	講	1	1	前	必修		
	基礎作業学Ⅰ	講	1	1	後	必修		
	基礎作業学Ⅱ	演	1	2	前	必修		
	作業分析学実習Ⅰ	実	1	2	後	必修		
	作業分析学実習Ⅱ	実	1	3	前	必修		
	作業療法実践と理論	演	1	3	後	必修		
	作業療法研究法	演	1	3	前	必修		
	作業療法研究法演習Ⅰ	演	1	3	後	必修		
	作業療法研究法演習Ⅱ	演	1	4	後	必修		
	作業療法管理運営・法規	講	1	3	後	必修		
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ（身障・老年）	講	1	2	前	必修		
	作業療法評価学Ⅱ（精神・発達）	講	1	2	前	必修		
	作業療法評価学演習	演	1	2	前	必修		
	作業療法評価学実習Ⅰ	実	1	2	後	必修		
	作業療法評価学実習Ⅱ	実	1	3	前	必修		
作業療法治療学	機能代償学	講	1	1	後	必修		
	中枢神経障害作業療法学	講	1	2	後	必修		
	運動器障害作業療法学	講	1	2	後	必修		
	内部障害作業療法学	講	1	2	後	必修		
	身体障害作業療法治療学特論Ⅰ（運動器）	講	1	3	後			
	身体障害作業療法治療学特論Ⅱ（中枢系）	講	1	3	後			
	身体障害作業療法治療学実習	実	1	3	前	必修		
	高次脳機能障害作業療法治療学	講	2	2	後	必修		
	高次脳機能障害作業療法治療学演習	演	1	3	前	必修		
	発達障害作業療法治療学	講	2	2	後	必修		
	発達障害作業療法治療学演習	演	1	3	前	必修		
	高齢期作業療法治療学	講	2	2	後	必修		
	高齢期作業療法治療学演習	演	1	3	前	必修		
	高齢期作業療法治療学特論	講	1	3	後			
	コミュニケーション技法	演	1	1	後	必修		
	精神障害作業療法治療学	講	2	2	後	必修		
	精神障害作業療法治療学演習	演	1	3	前	必修		
	精神障害作業療法治療学特論	講	1	3	後			
	臨床運動学	講	1	3	後	必修		
	日常生活適応学演習	演	1	3	前	必修		
	作業療法総合セミナーⅠ	演	1	4	後	必修		
作業療法総合セミナーⅡ	演	1	4	後	必修			
地域作業療法学	地域作業療法学総論	講	1	1	後	必修		
	地域作業療法学演習	演	1	2	前	必修		
	地域作業療法学実習	実	1	2	後	必修		
	地域作業療法学特論	講	1	3	後			
	地域健康支援学	講	1	3	後	必修		
臨床実習	臨床実習Ⅰ	実	1	1	後	必修		
	臨床実習Ⅱ	実	3	3	後	必修		
	臨床実習Ⅲ	実	8	4	前	必修		
	臨床実習Ⅳ	実	8	4	前	必修		

工 看護学科
教養科目

分野	科目	区分	単位数	配当 及び	年次 学期	卒業 必修	備考
人間と文化	心理学概論	講	2	1	前		
	文章表現	講	2	1	前		
	看護基礎講座	講	2	1	前	必修	
	総合教養講座	講	2	1	前		
	生活と社会環境	講	2	1	後		
	食生活論	講	2	1	後		
社会と制度	現代医療と福祉・介護	講	2	1	前		
	キャリア入門	講	1	1	前	必修	
	キャリア形成	講	1	3	前		
	日本国憲法	講	2	1	後		
自然と科学	生命科学	講	2	1	前		
	物理学	講	2	1	前		
	基礎化学	講	2	1	前		
	情報処理	講	2	1	前		
	統計の基礎	講	2	1	後		
外国語	中国語 I	演	1	1	前		
	中国語 II	演	1	1	後		
	ロシア語 I	演	1	1	前		
	ロシア語 II	演	1	1	後		
	英語 I	演	1	1	前		
	英語 II	演	1	1	後		
	英語 III	演	1	2	前		
スポーツと健康	生涯スポーツ I	演	1	1	前		
	生涯スポーツ II	演	1	1	後		
総合領域	海外・研修 I	演	1	—	—		
	海外・研修 II	演	2	—	—		
	海外・研修 III	演	1	—	—		
	海外・研修 IV	演	2	—	—		

専門基礎科目

分野	科目	区分	単位数	配当 及び	年次 及び	卒業 必修	備考
人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	解剖学Ⅱ	講	2	1	後	必修	
	生理学Ⅰ	講	2	1	前	必修	
	生理学Ⅱ	講	2	1	後	必修	
	免疫学	講	1	1	後	必修	
	看護栄養学	講	2	2	前	必修	
疾病の成り立ちと回復の促進	臨床心理学	演	1	1	後	必修	
	病理学	講	2	2	前	必修	
	病態・治療学Ⅰ	講	2	2	前	必修	
	病態・治療学Ⅱ	講	2	2	前	必修	
	病態・治療学Ⅲ	講	2	2	後	必修	
	薬理学	講	2	1	後	必修	
	臨床検査概論	講	1	2	前	必修	
健康支援と社会保障制度	医学概論	講	1	1	前	必修	
	関係法規	講	1	1	後	必修	
	生涯発達論	講	2	1	後	必修	
	地域看護学概論	講	1	2	前	必修	
	保健医療福祉行政論	講	2	1	後	必修	
	チーム医療概論	講	1	2	後	必修	
	リハビリテーション論	講	1	2	前	必修	
	医療英語	講	1	2	前	必修	
	看護学英語文献講読	講	1	3	前		

専門科目

分野	科目	区分	単位数	配当 及び	年次 及び	卒業 必修	備考
基礎看護学	看護学概論	講	2	1	前	必修	
	コミュニケーション論Ⅰ	講	1	1	前	必修	
	コミュニケーション論Ⅱ	講	1	1	後	必修	
	看護ヘルスアセスメント	演	1	1	後	必修	
	共通看護援助技術	演	1	1	前	必修	
	日常生活援助技術Ⅰ	演	1	1	後	必修	
	日常生活援助技術Ⅱ	演	1	2	前	必修	
	診療補助看護援助技術	演	1	2	後	必修	
	看護過程論	演	1	2	前	必修	
	看護倫理	講	1	3	前	必修	
	看護教育学	講	1	4	後		
	看護理論	講	1	1	後	必修	
成人看護学	成人看護学概論	講	1	1	後	必修	
	成人看護学援助論Ⅰ	講	1	2	前	必修	
	成人看護学援助論Ⅱ	講	1	2	後	必修	
	成人看護学援助論Ⅲ	演	1	2	後	必修	
	成人看護学援助論Ⅳ	演	1	3	前	必修	
	成人看護学援助論Ⅴ	演	1	3	前	必修	
	がん看護学	講	1	2	後	必修	

分野	科目	区分	単位数	配当 及び	年次 学期	卒業 必修	備考
老年看護学	老年看護学概論	講	2	2	前	必修	
	老年看護学援助論Ⅰ	演	1	2	後	必修	
	老年看護学援助論Ⅱ	演	1	3	前	必修	
小児看護学	小児看護学概論	講	2	2	前	必修	
	小児看護学援助論Ⅰ	演	1	2	後	必修	
	小児看護学援助論Ⅱ	演	1	3	前	必修	
	小児看護学健康障害論	講	2	2	前	必修	
母性看護学	母性看護学概論	講	1	2	前	必修	
	周産期健康障害論	講	2	2	前	必修	
	母性看護学援助論Ⅰ	講	2	2	後	必修	
	母性看護学援助論Ⅱ	演	1	3	前	必修	
	母性看護学援助論Ⅲ	演	1	3	前	必修	
精神看護学	精神看護学概論	講	2	2	前	必修	
	精神看護学健康障害論	講	2	2	前	必修	
	精神看護学援助論Ⅰ	演	1	2	後	必修	
	精神看護学援助論Ⅱ	演	1	3	前	必修	
在宅看護論	在宅看護学概論	講	1	1	後	必修	
	地域包括ケアシステム論	講	1	2	前	必修	
	在宅看護学援助論Ⅰ	演	1	2	後	必修	
	在宅看護学援助論Ⅱ	演	1	3	前	必修	
	家族看護学	講	1	2	後	必修	
看護の統合と実践	看護研究Ⅰ	演	1	3	前	必修	
	看護研究Ⅱ	演	2	4	前・後	必修	
	看護マネジメント論	演	1	4	前	必修	
	リスクマネジメント論	講	1	3	前	必修	
	国際看護学	講	1	4	後	必修	
	災害看護学	講	1	4	後	必修	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	実	1	1	前	必修	
	基礎看護学実習Ⅱ	実	2	2	後	必修	
	成人看護学実習Ⅰ	実	3	3	後	必修	
	成人看護学実習Ⅱ	実	3	3	後	必修	
	老年看護学実習	実	4	4	前	必修	
	小児看護学実習	実	2	3	後	必修	
	母性看護学実習	実	2	3	後	必修	
	精神看護学実習	実	2	4	前	必修	
	在宅看護学実習	実	2	4	前	必修	
	看護実践マネジメント実習	実	2	4	前	必修	

オ こども発達学科
教養科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期		卒業必修	資格区分			
							保育士	幼稚園教諭	小学校教諭	特別支援学校教諭
人間と文化	心理学概論	講	2	3	前					
	食生活論	講	2	3	後					
	総合教養講座	講	2	1	前	必修				
社会と制度	日本国憲法	講	2	2	後	必修	必	必	必	
	現代医療と福祉・介護	講	2	3	前					
	キャリア入門	講	1	1	前	必修				
	キャリア形成	講	1	3	後					
	キャリア発展	講	1	3	後					
	現代社会論	講	2	1	後					
自然と科学	生命科学	講	2	2	前					
	統計の基礎	講	2	1	後					
	物理学	講	2	4	前					
外国語	英語 I	演	1	1	前	必修	必	必	必	
	英語 II	演	1	1	後	必修	必	必	必	
	中国語 I	演	1	2	前					
	中国語 II	演	1	2	後					
	ロシア語 I	演	1	3	前					
	ロシア語 II	演	1	3	後					
スポーツと健康	生涯スポーツA	講	1	1	後	必修	必	必	必	
	生涯スポーツB	実	1	1	前	必修	必	必	必	
総合領域	異文化間コミュニケーション論	講	2	2	後					
	情報処理	講	2	1	前	必修	必	必	必	
	海外・研修 I	演	1	—	—					
	海外・研修 II	演	2	—	—					
	海外・研修 III	演	1	—	—					
	海外・研修 IV	演	2	—	—					

専門基礎科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期			卒業必修	資格区分			
								保育士	幼稚園教諭	小学校教諭	特別支援学校教諭
学びの理解	基礎ゼミナールⅠ	演	1	1	前	必修					
	基礎ゼミナールⅡ	演	1	1	後	必修					
	基礎ゼミナールⅢ	演	1	2	前						
	こども学原論	講	2	1	前	必修	選必A				
	基礎音楽	講	2	1	前		選必A				
教育と保育の理解	保育方法の理論と実践	講	2	2	後	必修	選必A	必			
	保育原理	講	2	1	前	必修	必	必			
	保育者論	講	2	1	後	必修	必	必			
	こどもの心理学Ⅰ	講	2	1	後	必修	必	必	必		
	こどもの心理学Ⅱ	演	1	2	後	必修	必	必	必		
	教職原論	講	2	1	前	必修		必	必		
	教育基礎論	講	2	1	後	必修	必	必	必		
こども支援	社会福祉	講	2	2	前	必修	必				
	こども家庭福祉	講	2	2	後	必修	必				
	知的障がい者の心理・生理・病理	講	2	1	前	必修	選必A			必	
	肢体不自由者の心理・生理・病理	講	2	1	後	必修	選必A			必	
	病弱者の心理・生理・病理	講	2	1	前	必修	選必A			必	
	視覚・聴覚障がい者の心理・生理・病理	講	1	1	後	必修	選必A			必	
	障がい児保育Ⅰ	演	1	4	前	必修	必				
	障がい児保育Ⅱ	演	1	4	後	必修	必				
子育て支援	こどもの食育Ⅰ	演	1	2	前		選必A				
	こどもの食育Ⅱ	演	1	2	後		選必A				
	子育て支援ネットワーク論	演	1	3	前		選必A				

専門科目

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期			卒業必修	資格区分			
								保育士	幼稚園教諭	小学校教諭	特別支援学校教諭
保育の理解	社会的養護Ⅰ	講	2	1	前		必				
	こども家庭支援論	講	2	2	前		必				
	子育て支援	演	1	2	後		必				
対象の理解	乳幼児心理学	講	2	1	後		選必A				
	青年心理学	講	2	2	前		選必A				
	こどもの保健	講	2	2	前		必				
	こどもの健康と安全	演	1	3	前		必				
	こどもの食と栄養Ⅰ	演	1	1	前		必				
	こどもの食と栄養Ⅱ	演	1	1	後		必				
	こども家庭支援の心理学	講	2	2	前		必				

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期		卒業必修	資格区分			
							保育士	幼稚園教諭	小学校教諭	特別支援学校教諭
保育方法の理解	保育の計画と評価	講	2	1	後		必			
	保育内容総論	演	1	1	前		必	必		
	保育内容Ⅰ健康Ⅰ	演	1	2	前		必	必		
	保育内容Ⅰ健康Ⅱ	演	1	2	後		選必A	必		
	保育内容Ⅱ人間関係Ⅰ	演	1	1	前		必	必		
	保育内容Ⅱ人間関係Ⅱ	演	1	1	後		選必A	必		
	保育内容Ⅲ環境Ⅰ	演	1	3	前		必	必		
	保育内容Ⅲ環境Ⅱ	演	1	3	後		選必A	必		
	保育内容Ⅳ言葉Ⅰ	演	1	1	前		必	必		
	保育内容Ⅳ言葉Ⅱ	演	1	1	後		選必A	必		
	保育内容Ⅴ音楽リズムⅠ	演	1	2	前		必	必		
	保育内容Ⅴ音楽リズムⅡ	演	1	2	後		選必A	必		
	保育内容Ⅵ絵画制作Ⅰ	演	1	1	前		選必A	必		
	保育内容Ⅵ絵画制作Ⅱ	演	1	1	後		選必A	必		
	社会的養護Ⅱ	演	1	3	前		必			
	乳児保育Ⅰ	講	2	3	前		必			
	乳児保育Ⅱ	演	1	3	後		必			
表現方法の理解	表現Ⅰ幼児音楽Ⅰ	演	1	1	前		必	必	選必C	
	表現Ⅰ幼児音楽Ⅱ	演	1	1	後		選必A	必	選必C	
	表現Ⅱ造形Ⅰ	演	1	2	前		必	必	必	
	表現Ⅱ造形Ⅱ	演	1	2	後		選必A	必	必	
	表現Ⅲ身体表現Ⅰ	演	1	3	前		必	必	必	
	表現Ⅲ身体表現Ⅱ	演	1	3	後		選必A	必	必	
	表現Ⅳ日本語表現Ⅰ	演	1	1	前		必			
	表現Ⅳ日本語表現Ⅱ	演	1	1	後		選必A			
	総合表現音楽Ⅰ	演	1	3	前		選必A		選必C	
	総合表現音楽Ⅱ	演	1	3	後		選必A		選必C	
小学校・幼稚園教科科目	国語科概論	講	2	1	前			必	必	
	社会科概論	講	2	1	後				必	
	理科概論	講	2	1	後				必	
	算数概論	講	2	1	後				必	
	生活科概論	講	2	2	前			必	必	
	家庭科教育概論	講	2	2	前				必	
	英語概論	講	2	2	前				必	
	教育制度論	講	2	1	前			必	必	
	生涯教育論	講	2	3	後					
	特別支援教育概論	講	2	2	前			必	必	
	教育課程の編成と実施	講	2	3	前			必	必	
	生徒指導の意義と内容	講	2	4	前				必	
	幼児の理解	講	2	2	前		選必A	必		
	道德教育の指導法	講	2	3	前				必	
	総合的な学習の時間の指導法	講	2	3	前				必	
	特別活動の指導	講	2	3	後				必	
	教育方法論	講	2	2	前			必	必	
	教育相談論Ⅰ	演	1	2	前			必	必	
	教育相談論Ⅱ	演	1	2	後			必	必	

分野	科目	区分	単位数	配当年次及び学期			卒業必修	資格区分			
								保育士	幼稚園教諭	小学校教諭	特別支援学校教諭
小学校教職科目	教科教育法 国語	講	2	2	後				必		
	教科教育法 社会	講	2	3	後				必		
	教科教育法 算数	講	2	2	前				必		
	教科教育法 理科	講	2	2	前				必		
	教科教育法 生活	講	2	2	後				必		
	教科教育法 音楽	講	2	2	後				必		
	教科教育法 図画工作	講	2	3	前				必		
	教科教育法 家庭	講	2	3	前				必		
	教科教育法 体育	講	2	3	後				必		
教科教育法 英語	講	2	2	後				必			
特別支援専門科目	特別支援教育総論	講	2	2	後					必	
	知的障がい教育Ⅰ	講	2	2	前					必	
	知的障がい教育Ⅱ	講	2	2	後					必	
	肢体不自由児教育Ⅰ	講	2	2	前					必	
	肢体不自由児教育Ⅱ	講	2	2	後					必	
	病弱教育	講	2	4	前					必	
	視覚・聴覚障がい教育	講	1	3	前					必	
	重複障がい教育総論	講	2	4	後					必	
発達障がい等教育総論	講	2	3	後					必		
学外・校外実習	教育実習指導Ⅰ	実	1	3	前後			選必B	選必D		
	教育実習Ⅰ	実	4	4	前			選必B	選必D		
	特別支援教育実習講義	演	1	3	後					必	
	特別支援教育実習	実	2	4	後					必	
	教育実習指導Ⅱ	演	1	3	後			選必B	選必D		
	教育実習Ⅱ	実	4	4	前			選必B	選必D		
	保育実習指導Ⅰ-1	演	1	2	後		必				
	保育実習指導Ⅰ-2	演	1	3	前		必				
	保育実習指導Ⅱ	演	1	3	後		選必A				
	保育実習指導Ⅲ	演	1	3	後		選必A				
	保育実習Ⅰ-1	実	2	2	後		必				
	保育実習Ⅰ-2	実	2	3	前		必				
	保育実習Ⅱ	実	2	3	後		選必A				
保育実習Ⅲ	実	2	3	後		選必A					
総合科目	こども学総合演習Ⅰ	演	1	3	前	必修	必	必	必		
	こども学総合演習Ⅱ	演	1	3	後	必修	必	必	必		
	教職実践演習(幼・小)	演	2	4	後			必	必		
	こどもの発達と保幼小連携	講	2	2	後						
	地域活動論	講	2	2	前						
	ボランティア活動	演	1	2	後						
	公衆衛生学	講	2	2	前		選必A				
	卒業研究Ⅰ	演	1	4	前						
卒業研究Ⅱ	演	1	4	後							

資格区分上の選択必修科目(選必A～D)履修方法

選必A：9単位以上(保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ2単位、保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ1単位を含む)、同B：5単位以上、同C：2単位以上、同D：5単位以上を履修する。

別表第3 教育職員免許状所要資格取得のための教育科目

(1) 教育の基礎的理解に関する科目等

区 分	授 業 科 目	単位数	配当年次 及び学期		免許区分		
					中学校	高等学校	栄養教諭
教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	2	2	前	必修	必修	必修
	教職入門	2	1	後	必修	必修	必修
	教育制度論	2	2～3	後	必修	必修	必修
	教育心理学	2	1	後	必修	必修	必修
	青年心理学	2	1	後			—
	特別支援教育概論	2	2～3	後	必修	必修	必修
	教育課程の意義と編成	2	2～3	後	必修	必修	必修
道徳、総合的な学習の 時間等の指導法及び生 徒指導、教育相談等に 関する科目	道徳教育の理論と方法	2	3	後	必修		必修
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	2～3	後	必修	必修	必修
	教育方法の理論と実践	2	2～3	前	必修	必修	必修
	生徒指導・キャリア教育の理論と方法	2	2～3	前	必修	必修	必修
	教育相談の基礎と方法	2	3	後	必修	必修	必修
教育実践に関する科目	教育実習指導	1	3	後	必修	必修	—
	事前事後指導	1	4	前	—	—	必修
	中学校教育実習	4	4	前	必修	選択必修	—
	高等学校教育実習	2	4	前	—		—
	栄養教育実習	1	4	前	—	—	必修
	教職実践演習（中・高）	2	4	後	必修	必修	—
	教職実践演習（栄養教諭）	2	4	後	—	—	必修

(2) 教科及び教科の指導法に関する科目

ア 英 語

区 分		授 業 科 目	単位数	配当年次 及び学期		免許区分	
						中学校	高等学校
教科に関する 専門的事項	英語学	英語学概論	2	2	前	必修	必修
	英語文学	英語文学 I	2	1	前	必修	必修
		英語文学 II	2	1	後	必修	必修
	英語コミュニ ケーション	実践英語 I	2	1	後	必修	必修
		アカデミックライティング入門 I	2	1	前	必修	必修
		アカデミックライティング入門 II	2	1	後	必修	必修
		アカデミックライティング I	2	2	前	必修	必修
		アカデミックライティング II	2	2	後	必修	必修
		スピーキング I	2	1	前	必修	必修
		スピーキング II	2	1	後	必修	必修
		スピーキング III	2	2	後	必修	必修
		映画で学ぶ英語 I	2	2	前	必修	必修
	異文化理解	異文化理解論 I	2	3	前	必修	必修
		時事問題・ディスカッション I	2	1	前	必修	必修
各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を 含む。)	英語科教育法 I	2	2~3	前	必修	必修	
	英語科教育法 II	2	2~3	後	必修	必修	
	英語科教育法 III	2	3~4	前	必修	必修	
	英語科教育法 IV	2	3~4	後	必修	必修	

イ 国 語

区 分		授 業 科 目	単位数	配当年次 及び学期		免許区分	
						中学校	高等学校
教科に関する 専門的事項	国語学 (音声言語及び 文章表現に関す るものを含む。)	日本語の表記と語彙	1	1	前	必修	必修
		日本語ライティング法	1	1	後	必修	必修
		日本語表現技法 I	1	1	前	必修	必修
		日本語表現技法 II	1	1	後	必修	必修
		日本語学	2	1	前	必修	必修
		現代日本語文法	2	3	前	必修	必修
		現代日本語論	2	3	後		
		日本語コミュニケーション技法	2	2	前	必修	必修
		古典日本語文法	2	2	後	必修	必修
		日本語実践運用法 I	2	3	前	必修	必修
	日本語実践運用法 II	2	3	後	必修	必修	
	国文学 (国文学史を含 む。)	日本の文学作品を読む	2	1	後		
		日本文学史	2	2	後	必修	必修
	漢文学	漢文講読	2	3	前	必修	必修
	書道 (書写を中心と する。)	書道・書道史 I	2	3	前	必修	
		書道・書道史 II	2	3	後	必修	
	各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を 含む。)	国語科教育法 I	2	2~3	前	必修	必修
国語科教育法 II		2	2~3	後	必修	必修	
国語科教育法 III		2	3~4	前	必修		
国語科教育法 IV		2	3~4	後	必修		

(3) 栄養に係る教育に関する科目

授 業 科 目	単位数	配当年次 及び学期		免許区分	
				栄養教諭	
学校栄養教育論総論	2	3	前	必修	
学校栄養教育論各論	2	3	後	必修	

(4) その他、教育職員免許状取得に要する科目

授 業 科 目		単位数	配当年次 及び学期		免許区分		
					中学校	高等学校	栄養教諭
日本国憲法	日本国憲法	2	1	後	必修	必修	必修
体育	生涯スポーツⅠ	1	1	前	必修	必修	必修
	生涯スポーツⅡ	1	1	後	必修	必修	必修
外国語コミュニケーション	英語Ⅰ	1	1	前	—	—	必修
	英語Ⅱ	1	1	後	—	—	必修
	中国語Ⅰ	2	1	前	1科目 選択必修	1科目	—
	中国語Ⅱ	2	1	後	—	選択必修	—
情報機器の操作	情報処理	2	1	前	必修	必修	必修

別表第4 入学検定料及び学費

外国語学部

入学検定料	入学料	授業料	教育充実費
30,000円	200,000円	810,000円	150,000円

※ 授業料、教育充実費は毎年度納入する。

人間科学部 健康栄養学科

入学検定料	入学料	授業料	教育充実費	実験実習費
30,000円	200,000円	810,000円	200,000円	100,000円

※ 授業料、教育充実費、実験実習費は毎年度納入する。

人間科学部 理学療法学科・作業療法学科

入学検定料	入学料	授業料	教育充実費	実験実習費
30,000円	300,000円	800,000円	300,000円	200,000円

※ 授業料、教育充実費、実験実習費は毎年度納入する。

人間科学部 看護学科

入学検定料	入学料	授業料	教育充実費	実験実習費
30,000円	300,000円	1,000,000円	200,000円	300,000円

※ 授業料、教育充実費、実験実習費は毎年度納入する。

人間科学部 こども発達学科

入学検定料	入学料	授業料	教育充実費	実験実習費
30,000円	200,000円	800,000円	200,000円	50,000円

※ 授業料、教育充実費、実験実習費は毎年度納入する。